

長 崎 県 産 の 爬 虫 類

山 口 鉄 男

REPTILES From Nagasaki Prefecture

Tetsuo YAMAGUCHI

(昭和40年9月30日受理)

I 序

かねてから、長崎県の動物相を明にしてみたいと念願して、その資料を集めているが、比較的に標本の集った、爬虫類を先づまとめてみることにした。

そしてその種名や分布などを記録し、あわせて形態、生態などを簡単に記述する。

この調査に当って、資料のしゅう集に御援助下さった、長崎北高山本愛三、福江中学山下典郎、五島高校松尾信幸、壱岐高校宮崎雅義、対馬高校浦田明夫、学芸学部助手陣野信孝、同江口和男の諸氏に厚く御礼を申し上げる。

また全般について何かと御教示をいただいた堀川安市氏、色々と御指導下さった熊本大学木場一夫教授に深く感謝の意を捧げる。

分類体系および学名などは、中村健児、上野俊一著、両生爬虫類図鑑によった。

II 長崎県産の爬虫類

Class REPTILIA 爬虫綱

Sub Class ANAPSIDA 無弓亜綱

Order TESTUDINATA カメ目

Fam. Cheloniidae ウミガメ科

Gen. Chelonia Brongniart, 1800 アオウミガメ属

1. *Chelonia mydas japonica* (Thunberg, 1787)

アオウミガメ

(第1図版 1)

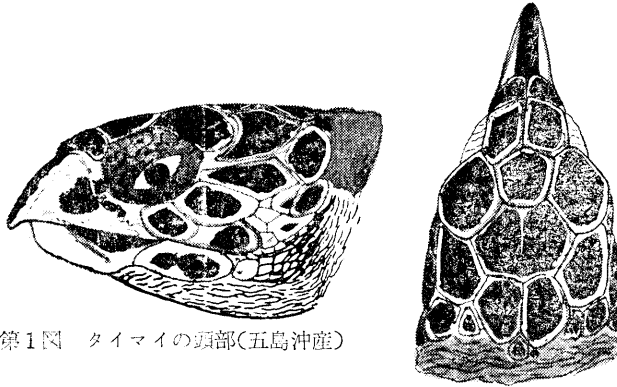
背面は青味をおびるが、暗褐色の個体もある。背甲には放射状の模様がある。甲長は100cm余もある大形のウミガメで、中央板は5枚、中央側板は4枚が普通である。(時に5枚のものもある)

本県では、まれに五島、壱岐近海で網にかかることがある。

Gen. Eretmochelys Fitzinger, 1843 タイマイ属2. *Eretmochelys imbricata squamata* Agassiz, 1857 タイマイ

(第1図版 2)

23—XII—'63 五島福江沖(漁夫から入手, 山下典郎) 対馬豆酸(漁夫から, 浦田明夫)



第1図 タイマイの頭部(五島沖産)

タイマイは俗にはベッコウガメとも称している。中央板は5枚、中央側板は4枚で、3本の隆条があり、各板は黒褐色に鮎色の混った色合である。

本県では五島、(壱岐は不明) 対馬の海域で、時どき漁網にかかって捕えられる。

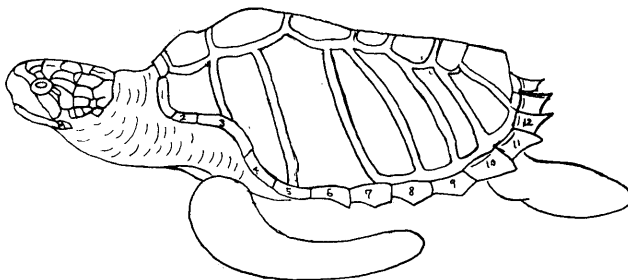
長崎のべっ甲細工

長崎はべっ甲細工の名産地であるが、これは今から約250年程前からはじめられたという。熟加工によって接着する技術が発見されてからは、精巧なものができるようになった。

原料のべっ甲は、現在は主として中米および、南米から輸入している。

Gen. Lepidochelys Fitzinger, 1843 アカウミガメ属3. *Lepidochelys Olivacea* Olivacea (Eschscholtz, 1829)

アカウミガメ

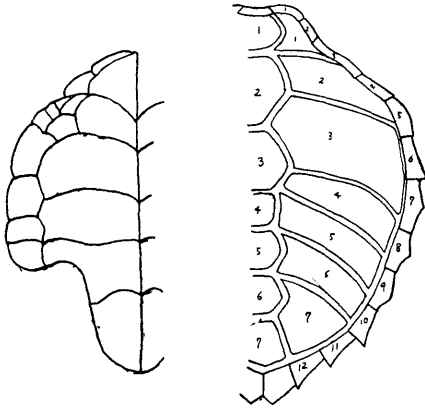


第2図 アカウミガメ側面(五島沖産)

て、再び海に放つ風習がある。

中央板は6枚、側板6枚位あるのが普通であるが、これには変異が多く、図示したものは中

背面は暗赤褐色で、甲長は600mmにも達する大形の海亀で、本県では五島、壱岐、対馬、平戸、小値賀の近海でしばしば大敷網や立網に入っ
て捕えられる。漁夫は捕えた
カメには、酒や焼酒を飲みし



央板および側板が7枚、縁板は12枚ある。(五島近海産) 6—7月頃には夜間、砂浜に上陸して50cm余の穴を掘り、中に産卵する。まれには昼間産卵することもある。小値賀島前方部落で、ある農夫が海岸近くの畑に仕事に行ったところ、怪物がいるので驚いて逃げ帰り、人を連れて再び引き返してよくみると、赤海亀が畑の中に産卵しているところであった、という実話もある(立岡)。

本県でこのカメが産卵によく上陸する場所は、南第2図 アカウミガメ背甲と腹甲(五島近海産) 高来郡加津佐の砂浜、西彼杵郡野母崎町の脇岬の砂浜、大瀬戸町雪の浦の浜、壱岐石田村の筒城、錦浜、五島の赤島の浜にもよく上る。玉の浦大宝海岸では土地の人は卵をとって食用にすることもある。

亀ト (第1図版 3)

亀トは亀の甲を焼いて、その割れ方で、吉凶を占ふ方法であって、対馬では現在でも、南部の豆酸(ツツ)小学校で、岩佐家が古来の方法によって、旧正月3日に毎年行っている。亀トの伝統を受けついでいる家は、対馬には30家ある。(浦田政雄)

対馬では、西海岸の阿連(アレ)の大野崎で捕えたアカウミガメの甲を使い、他所で捕えたカメは使はない。先づ亀甲を長みのある五角形に切り、よく磨いたのち、1cm角の浅い穴を多数掘り、下から、タラやサクラの火であぶると、この甲が割れる。この割れ方で吉凶を占うのである。

大正4年の大正天皇の御即位式の時も、ユキ田、スキ田の設置場所を決定するのに、この亀トが正式に行はれ、対馬から5家、壱岐から5家が参加した。またシカの肩胛骨を使って占うこともある。

Fam. Dermochelyidae オサガメ科

Gen. Dermochelys Blainville, 1816 オサガメ属

4. *Dermochelys coriacea* Schlegeli (Garman, 1884)

オサガメ

(第1図版 4)

背面は青黒色で、正中線に1本、左右両側にそれぞれ3本ずつの隆条がある。(若い個体では、体表が細かい多角形の鱗板でおおわれているが、成熟すると鱗がとれて、体表はなめらかな皮膚でおおわれるようになる)。

体長は2000mm余もある巨大なカメで、現存のカメ類中では最も大きい。太平洋や印度洋に

分布しているが、暖流に乗ってやってきたものが五島、壱岐沖で時どき捕れる。写真は数年前に五島で捕れたもので、現在長崎水族館に剝製として保存してある。最近も少し小形のものが捕れたが、これは背甲に斑紋が残っていて美しい。飼育はやや困難である。

Fam. Testudinidae カメ科

Sub Fam. Emydinae イシガメ亜科

Gen. Geoclemys Gray, 1855 クサガメ属

5. Geoclemys reevesii (Gray, 1831)

クサガメ

(第1図版 5)

10—Ⅷ—1963 大村(山口採) 対馬(浦田) 壱岐(宮崎) 小値賀(立岡)

甲長 160mm

背甲は暗褐色で、甲板の周辺は黄色に縁取られている。頭部側面から頸部にかけて、黄色の不規則な縦条がある。甲長は15cm余であるが、時には18cm位のもいる。中央板は5枚、中央側板は4枚である。

淡水産で雑食性であって、飼育したものはパン、ウドン、米飲を食べ、ことにミミズは好んで食べた。11月になると砂にもぐって越冬した。

あまり個体数は多くないが、県本土(現在は大村地方だけで採集しているが、おそらく県全体にいうと思う) 対馬全島(佐須奈、厳原、三津島で浦田採集) 壱岐に産する。五島には産しないという(山下)。

Gen. Clemmys Ritgen, 1828 イシガメ属

6. Clemmys japonica (Temminck et Schlegel, 1835)

イシガメ

(第1図版 6)

21—Ⅶ—'62 大村(山口) 対馬比田勝(浦田) 五島福江(山下) 壱岐(宮崎) 小値賀(立岡) 外に諫早、島原方面

甲長 153mm

最も普通な淡水産のカメで、背甲は暗褐色、各板にはその外割に沿って数条の条があるし、またその縁が黄色に縁どられていないので、クサガメとは簡単に区別がつく。

県本土、および五島、壱岐、(壱岐には多い) 対馬(対馬には少い) に産する。

この種は日本固有種である。

Fam. Trionychidae スッポン科

Gen. Trionyx Geoffroy-Saint-Hilaire, 1809 スッポン属

7. Trionyx sineasis japonicus Temminck et Schlegel, 1835

スッポン

(第2図版 1)

15—VI—'64 大村市鈴田川(平野 緑) 壱岐(宮崎)

甲長 204mm

背甲は灰黒色で、体表には硬い甲がなく、柔かい皮膚におおわれている。腹甲は黄白色である。淡水産で底が砂泥質の川や池に好んですみ、時どき岩上に上って甲を乾している。主として肉食性で、飼育したものは、ドジョウ、小魚、カエルなどを食べた。

県本土と壱岐に産する。五島、対馬には産しない。

肉は美味で、料理して食べる。

Ord. SQUAMATA トカゲ目

Sub Ord. LACERTILIA トカゲ亜目

Fam. Gekkonidae ヤモリ科

Sub Fam. Gekkoninae ヤモリ亜科

Gen. Gekko Laurenti, 1768 ヤモリ属

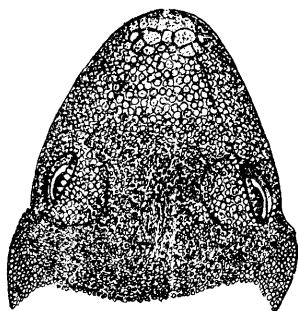
8. Gekko japonicus (Duméril et Biblon, 1836)

ヤモリ

(第2図版 2)

15—VIII—'65 大村市(他に長崎、諫早、雲仙、多良)(山口) 五島(山下) 対馬(浦田) 壱岐(宮崎) 小値賀(立岡)

全長 127mm 尾長 58mm



第3図 ヤモリの頭部と背鱗

全体は灰褐色で、背面には八状の淡い斑紋があり、尾には淡い横帯がある。頭鱗は円形の小隆起であり、背鱗では小粒の中に、所々にやゝ大きな円い隆起が混っている。

人家附近に多く、吸盤があって窓によちたり、屋内に入ってきて壁や天井などを這い回することもある。昆虫などを捕食する。

県本土、五島、壱岐、対馬に分布する。

Fam. Scincidae トカゲ科

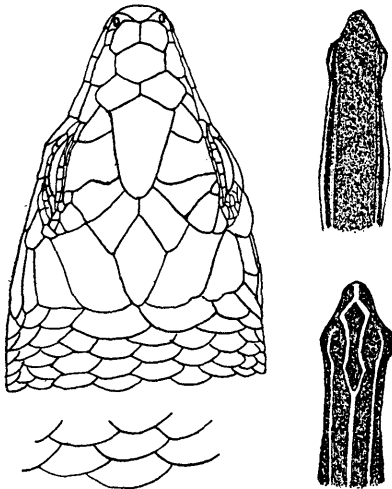
Gen. *Eumeces* Wiegmann, 1834 トカゲ属9. *Eumeces latiscutatus* (Hallowell, 1860)

トカゲ

(第2図版 3, 4)

23—Ⅶ—'65 大村市(山口) 五島(山下) 壱岐(宮崎) 小値賀(立岡)

全長 181.5mm 尾長 139.7mm



第4図 1. トカゲの頭部と背鱗
2. トカゲの背面

図のような頭鱗を有し、背鱗は板状のものが重なっている。

背部の色彩は褐色または暗褐色で、側面には黒条が走り、その背腹両面は色の薄い灰白色をなしている。大村にはきわめて稀れに頭部に2本の白条を有するものが産する。

幼時は、背面は光沢のある帯青黒色で、3本の黄白条が走り、尾の中央部に達する。正中線の1本は後頭部で2本に分れ、先端では再び合して吻端に及ぶ。尾は美しい光沢のある青黒色である。

成体になっても、幼時の色彩、線条をそのまま有する個体も、かなり見つかる。

うな動作で捕える。

県本土、五島、壱岐に産する。

平地、人家附近に多く、昆虫類やクモ類などを敏し

Gen. *Lygosoma* Hardwicke et Gray, 1827 スベトカゲ属10. *Lygosoma reevesii vandenburghi* (K. P. Schmidt, 1927)

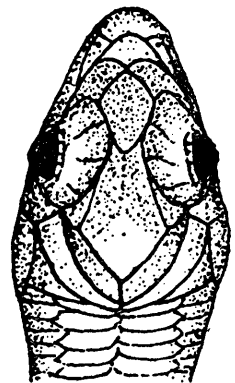
ツシマスベトカゲ

(第2図版 5)

11—Ⅶ—'64 対馬厳原(浦田) 30—Ⅸ—'65 厳原(尾崎延芳)

体長 98mm および 85mm

この種は対馬に特産するトカゲで、台湾に産するタイワンスベトカゲ、琉球列島の石垣島、宮古島、沖縄本島、尖閣列島に産するサキシマスベトカゲとは別亜種である。



第5図 ツシマスベトカゲの頭部

対馬には内地産の普通のトカゲを産せず、南方系のこのトカゲが特産することは興味が深い。体長は10cm程度か、それ以下のものが多く、体は細長く、尾も体長の半分を僅に越えるほどで、細い。

背面は暗褐色で黒褐色斑点が散在し、体側には黒褐縦線がある。腹面は汚白色。

墓石の附近、石垣の間、朽木の下などによくいて、動作は敏しうである。

Fam. Lacertidae カナヘビ科

Gen. *Takydromus* Daudin, 1802 カナヘビ属

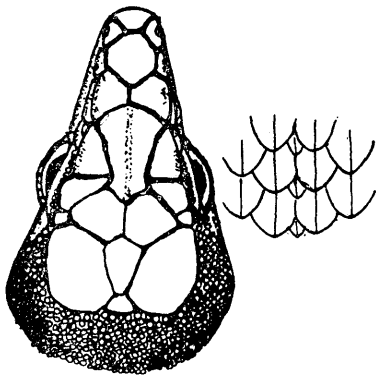
11. *Takydromus tachydromoides* (Schlegel, 1838)

カナヘビ

(第2図版 6)

3—Ⅷ—'65 大村(山口) 2—IX—'65 雲仙ゴルフ場(山口) 五島(山下) 壱岐(宮崎)
小値賀(立岡)

体長 156mm 尾長 112mm



第6図 カナヘビの頭部と背鱗

全県下にわたり、平地にも山地にも多いが、普通の人にはトカゲと混同する人が多い。

背面は褐色、暗灰色、赤味の強いものなど色彩の変異は多い。頭部は図のような鱗におおわれ、背鱗は大形で6列、その上に6本の連続した隆条を作る。正中線の部分だけ小形鱗が並ぶ。体側鱗は細かい。

平地にも山地にも多く、県本土、五島、壱岐に産する。

落葉の下などに、土中に浅くもぐって一匹、或は数匹が固まり、体を曲げて越冬する。

Sub Order OPHIDIA ヘビ亜目

Fam. Colubridae ヘビ科

Sub Fam. Colubrinae ヘビ亜科

Gen. *Elaphe* Fitzinger, 1832 ヘビ属

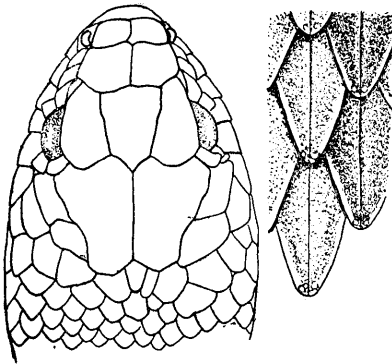
12. *Elaphe quadrivirgata* (Boie, 1826)

シマヘビ

(第3図版 1, 2)

2—IX—'65 雲仙矢岳, その他大村黒木, 長崎, 諫早, 島原 (山口) 長崎 (山本) 五島 (山下, 五島高校) 壱岐 (壱岐高校)

体長 1044mm 尾長 216mm 腹板 202.204



第7図 シマヘビの頭部と背鱗

体の背面は緑がかった褐色で, 胴背に4本, 尾背に2本の黒色縦線が走っている。下唇から頸の下方あたりまでは黄色, 腹板に青灰色の不規則斑を有するものが多い。

また腹板が赤味をおびる個体もいる。

時どきカラスヘビと呼ぶ (f. *atra* Jan, 1867) まっ黒いヘビがいるが, これはシマヘビの黒化種である。

最も普通な種類で, 対馬を除く県本土, 壱岐, 五島に分布する。

カエル, トカゲなどを好んで食べ, 鶏卵も呑むという。五島ではこのヘビが結核, 夜尿症に薬効があるというて用いることがある (山下)。

本種は日本固有種である。

13. *Elaphe Conspicillata* (Boie, 1826)

ジムグリ

(第3図版 3, 4, 5, 6)

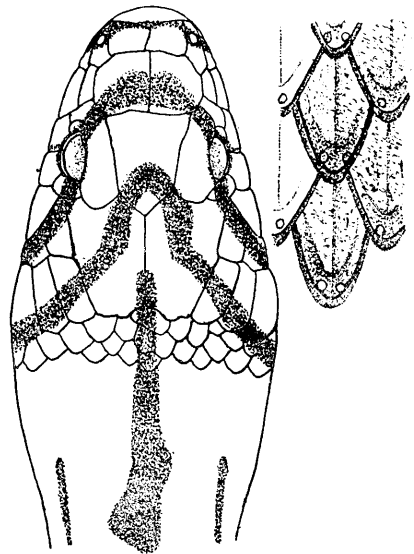
体長 1130mm 尾長 174mm 腹板 220

8—VI—'63 大村 (山口) 長崎 (山本) 五島 (山下) 壱岐 (壱岐高校)

背面は淡褐色で, 頭部には図のような黒条を有するのが特徴である。ことに八状の黒条が最もめだつ。

腹面は赤褐色, または淡桃色で, それぞれの腹枚には, その全長にわたり四角の黒斑があって, 赤褐色と黒斑とが市松模様のようにになっている。液浸したものは赤褐色が無くなり黒斑だけが残る。

幼蛇では, 背面が美しい赤褐色で, 多数の黒い細い横帯があって, 一見別種のように見えるが, 頭部の八状黒条と腹面の黒斑を見れば同種であることがわかる。成体では細



第8図 ジムグリの頭部と背鱗

い黒帯を明瞭に有する体個となない個体がある。(第3図版4, 6)

このジムグリも対馬を除いた全県下に分布している。

おとなしいヘビで、主に林の中などにすんでいて、平地には比較的に少ないが、時には畑を耕していると掘り出すこともある。

この種も日本固有種である。

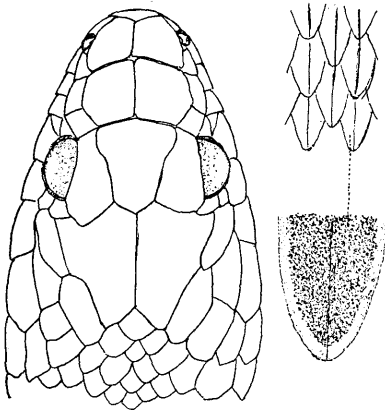
14. *Elaphe clima cophora* (Boie, 1826)

アオダイショウ

(第4図版1)

30—Ⅷ—'65 大村(山口) 長崎(山本) 五島(山下, 五島高校) 壱岐(壱岐高校) 対馬(浦田, 鴨川)

体長 1368mm 尾長 292mm 腹板 239



第9図 アオダイショウの頭部と背鱗

山林でも、平地、人家附近にも最も普通なヘビで、大きいのは2mに近いものもある。

背面は灰黒色あるいは濃褐色がかった灰色で、4条の縦線があるが、個体によってはこの線は、あまり目立たないものもある。

全県下に分布する。本によると対馬には分布しないとしたものもあるが、対馬にも生息する。人家にも入ってくることがある。幼蛇はカエルを好むが、成蛇はネズミをよく捕え、小鳥やその卵、魚もとる。鶏舎に入ってきて鶏卵を吞むこともしばしばある。まちがって陶製の凝卵を吞んだ時には吐き出す。あの硬い卵殻は脊椎骨にある小突起で破壊される。

この種も日本固有種である。

Gen. *Dinodon* Duméril et Bibron, 1853 マダラヘビ属

15. *Dinodon rufozonatus rufozonatus* (Cantor, 1840)

アカマダラ

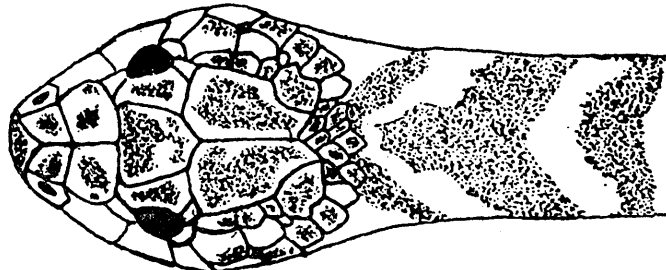
(第4図版2)

Ⅶ—'94 対馬(浦田, 対馬高校)

体長 823mm 尾長 137mm

腹板 210

背面は赤褐色または紅褐色で



第10図 アカマダラの頭部

胴に60個ぐらい、尾に20~30個ぐらいの黒い横帯がある。

このヘビは、日本では対馬だけにすんでいる。海外では、朝鮮、満州南部、中国、台湾などに分布する。

対馬では内地でヤマカガシを見る程度に分布していて、山林でも耕地や人家近くにも見られる。とくに水のある近くを好む習性があり、人家近くに昼間あらわれる時も、井戸の附近の湿りのあるところにいる。カエル、小鳥、ミミズ、他のヘビや魚などを捕えて食べる。

性質は少し荒い方で、棒などでつつくと、口をあいて向う姿勢をとる。

大陸産のこのヘビが、対馬に生息することは、生物地理学上興味のあることである。

16. *Dinodon Orientalis* (Hilgendorf, 1880)

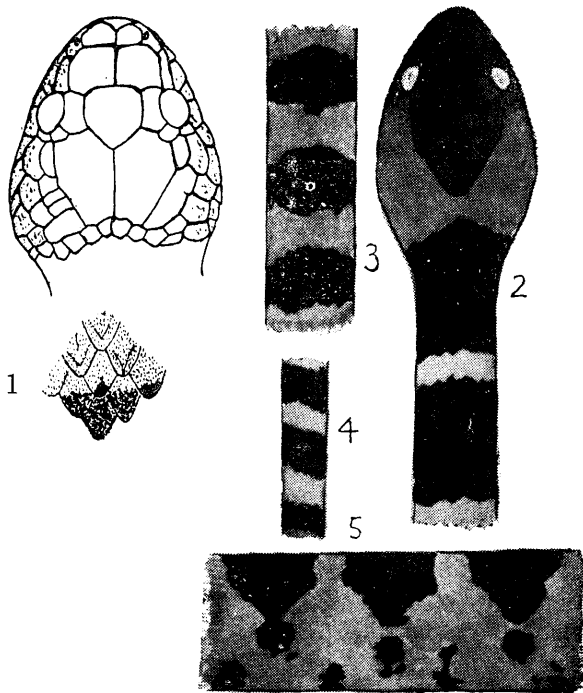
シロマダラ

(第4図版 3)

22—Ⅷ—'95 五島大瀬崎(山口) 五島福江市(山下, 五島高校) 壱岐(壱岐高校)

西彼杵郡三重村(池崎)

体長 269mm 尾長 54mm 腹板 220



背面は淡い灰褐色の地色に多数の黒帯がある。腹面は白い。

測定したものは幼蛇で、成長すると300~700mm余になる。

現在標本がとれたのは五島、壱岐、三重であるが、県本土にも少いながら広く分布しているのではないかと思われる。夜行性であるために捕えられる機会があまりないのであろう。五島福江市では、市の周辺部の民家附近に、日暮れ頃に出ることがあって、まれに捕えられるが少い(山下) 冬は木の皮の下や崖の木の根の間などで越冬するという(上野) この種も日本固有種である。

第11図 1. シロマダラの頭部と背鱗
2. 頸部の黒帯 3. 胴部中央の黒帯
4. 尾部の黒帯 5. 体側の斑紋

Sub Fam. Natricinae ユウダ亜科 (ヤマカガシ亜科)

Gen. *Natrix* Laurenti, 1768 ユウダ属

17. *Natrix vibakari* (Boie, 1826)

ヒバカリ

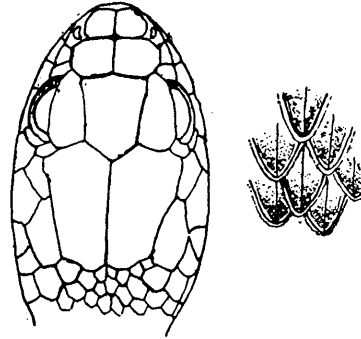
(第4図版 4)

5—Ⅶ—'63 大村(山口) 長崎(山本) 五島(山下)
壱岐(壱岐高校)

体長 395mm 尾長 74mm 腹板 152

背面は褐色の美しい小形のヘビである。背面に淡い黒条のある個体もいる。

対馬を除く全県下に分布している。水辺を好み、カエルを捕食し、小鳥を襲うこともある。性質は荒い方で、捕えると口を開いて、かみつこうとする。



第12図 ヒバカリの頭部と背鱗

Gen. *Rhabdophis* Fitzinger, 1843 ヤマカガシ属

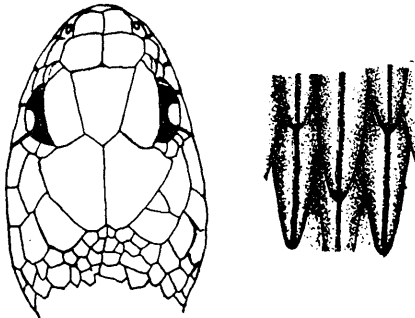
18. *Rhabdophis tigrinus tigrinus* (Boie, 1826)

ヤマカガシ

(第4図 5, 6)

12—Ⅶ—'63 大村(山口) 長崎(山本) 五島(山下) 壱岐(宮崎)

体長 578mm 尾長 146mm 腹板 161



第13図 ヤマカガシの頭部と背鱗

ヤマカガシは最も普通なヘビである。

背部は灰黒色で不正円形の黒色斑紋が多数あり、体側には赤斑がある。幼蛇では頸の部分に黄白色の横帯があるが、成蛇ではあまり目立たない。時によると頸の横帯が鮮黄色の個体もいる。このヘビは、体色の変化が著しく、全体が黒味の強いものも少ない。背鱗は長く、中央に強い大きな隆起があって、屋根状に重なっている。

この種の頸部には、皮下に特別な分泌腺(頸腺)があって、ここを圧すと黄色の液を出す。これは一種の毒腺と考えられている。

対馬を除いた全県下に分布する普通種である。田圃や池沼などの水辺でよく見かけ、カエルを捕食する。

雲仙では矢岳や絹笠山の頂上近くで、体長1m50cmを越す巨大なヤマカガシを捕えた。五島でもアオダイショウと見まごうばかりの巨大なのが、しばしばいる由である（山下）。

Fam. Hydrophidae ウミヘビ科

Sub Fam. Laticaudinae エラブウミヘビ亜科

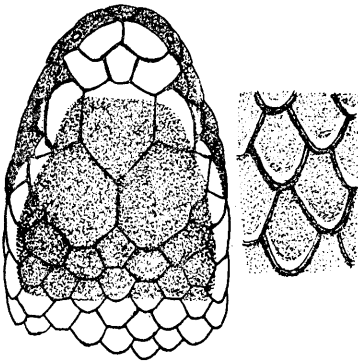
Gen. Laticauda Laurenti, 1768 エラブウミヘビ属

19. Laticauda Colubrina (Schneider, 1799)

アオマダラウミヘビ

（第5図版 1）

体長 843mm 尾長 76mm 腹板 239



第14図 アオマダラウミヘビの
頭部と背鱗

この海蛇は、背面は青く、腹面は黄色であって、（液漬すると背面灰色、腹面は灰白色になる）体部に42個、尾部に5個の黒帯がある、この黒帯は腹面にも伸びて環状紋をなしている。

アオマダラウミヘビは1926年に SMITH によって長崎から記録されている（上野，両生爬虫類図鑑 P174）。これが我国に於ける唯一の記録であるが、写真および測定に用いた標本は、長崎海洋気象台の長風丸が、本年（昭40）8月初め、沖縄の西表島近くで、作業中に捕えたもので、長崎水族館に寄贈し、同館で展示したものをゆずり受けたものである。

したがって西表島近海もまた、日本における同種の新産地として記録さるべきである。

この種は海外では、馬來群島（スマトラ、ボルネオ、ジャバ、チモール、セレベス、ハルマヘラ、アンボン、西イリアン）濠洲、ニュージーランド、フィジー諸島、ニューカレドニア、ソロモン群島、西カロリン、比島、シンガポール、ピナン、南中国、台湾など、南方の海洋に分布する。

Sub Fam. Hydrophiinae ウミヘビ亜科

Gen. Hydrophis Latreille, 1802 ウミヘビ属

20. Hydrophis cyanocinctus Daudin 1803

マダラウミヘビ

五島近海産

体は黄色で、背面には青黒色の横帯がある（胴に53個、尾に6個）。



第15図 マドラウミ
ヘビの頭部
(大島より略写)

頭部は小さいが、腹部は後方では側扁して大きくなり、頸部の2倍半位にも太くなっている。鱗は瓦状に重なる。

昭和16年7月に、珍しい海蛇が五島附近で漁船の網にかかって捕えられ、長崎水産試験場に持ちこまれたという記事が、当時の長崎日日新聞に、写真入りで掲載された。そこで早速連絡してその翌日に見せてもらったが、前日に当時海産動物を多数採集しておられた、金子一狼という変わった面白いお医者さんが、長崎の銀屋町におられたが、種名を知るためにそこに持ちこんだところ、腹部が大きいので、何か吞んでいるのではないかと、腹を少し割いて見られたという話であった。その時記録しておいたのがこのマドラウミヘビである。

ペルシャ湾、印度洋、ニューギニアに至る洋上に分布し、暖流に乗ってくる個体が本州南部でも捕れる。

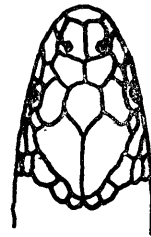
21. *Hydrophis ornata Godeffroyi*, (Peters)

ゴッドフロアウミヘビ

岡田瀧一郎氏が長崎県沿岸で採集されたことがあると記述している（動物図鑑 P240）。

背面は灰青色または淡黄褐色で、腹面は黄白色、背面と側面に黒褐色の横帯が並ぶ。

本種は中国南部、タイ沿岸、台湾、琉球の近海に分布している。



第16図 ゴッドフロアウミ
ヘビの頭部
(大島より略写)

Gen. *Pelamis* Daudin, 1803 セグロウミヘビ属

22. *Pelamis platurus* (Linné, 1766)

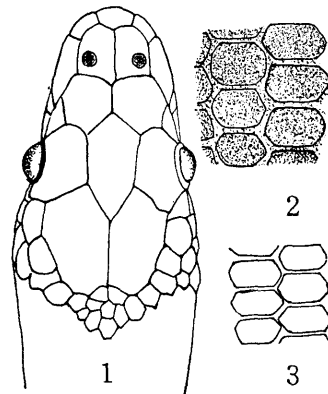
セグロウミヘビ

(第5図版 2)

体長 680mm 尾長 77mm

五島近海（山下）（五島高校）、壱岐八幡湾、芦辺近海（壱岐八幡小学校）対馬近海（岡田喜一、対馬郷土館蔵）（対馬高校）

本県の、殊に五島、壱岐、対馬近海で、最もしばしば採集されるのがセグロウミヘビである。外洋よりも、むしろ海岸近く



第17図 1. セグロウミヘビの頭部
2. 背鱗 3. 腹鱗

を泳ぎ回ることが多く、漁夫の網によくかかる。山下は海岸近くを泳いでいるのを捕えたこともある。

背面が真黒く、腹面は黄色あるいは褐色など変異がある、尾部の側扁した部分には黒斑が並び、背鱗は六角形で他のヘビのように重り合わず並び、腹鱗も同様に長六角形のものが並んでいる。

分布は馬來群島、ソロモン群島、濠洲、ニュージーランド、印度、マダガスカル、タイ、南中国、台湾、沖縄など、分布区域の最も広い海蛇で、日本では九州から北海道まで総ての地方で見られる。

五島ではセグロウミヘビが網にかかると、漁夫は家に持ち帰って、塩漬けにしたものを神棚に供える風習がある。これは大漁があるようにという呪である。

しかし、魚以外の海蛇などは、船ばたで殺して再び海に投げこみ、持ち帰らないことがむしろ多いから、案外に他の種類も捕れているのに、知られないでいるのかも知れない。

Fam. Viperidae クサリヘビ科

Sub Fam. Crotalinae マムシ亜科

Gen. Agkistrodon Beauvois, 1799 マムシ属

23. Agkistrodon halys (Pallas, 1776)

マムシ

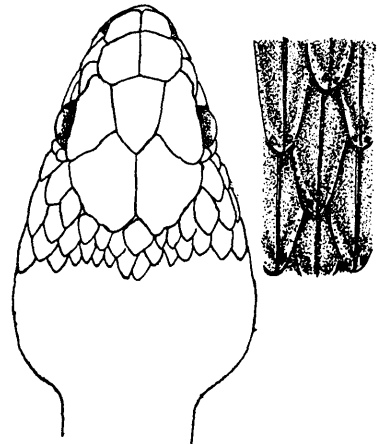
(第5図版 3, 4)

25—Ⅶ—'60 雲仙普賢, 16—Ⅵ—'61 多良岳, その他大村, 諫早(山口)長崎(山本)五島(山下)(五島高校)壱岐(壱岐高校)対馬(対馬高校)

体長 530mm 尾長 87mm 腹鱗 142

頭部は三角形で大きく、鱗板はよく分化している。体色は背面が暗褐色で、黒褐色の大きな不正円形の斑紋がある。腹部は黒く、赤褐色の不規則な斑紋がある。尾は一般に短い。色彩の変化は大きく、赤味の強いアカマムシ、黒味の強いクロマムシがいる。この色彩変異は個体的にも、地方的にも比較的著しい。

対馬のマムシは腹板の数から見ると大陸系ではなく、日本系のマムシである。



Stejneger は腹板、並びに尾下板の数および体鱗の列数 第18図 マムシの頭部と背鱗

によって、*A. blomhoffii* (日本本土産)、*A. b. affinis* (八重山産)、*A. b. brevicaudas* (中国東部、朝鮮、台湾産)、*A. b. intermedius* (シベリア、満州、トルキスタン産)に分けているが、大島正満氏によれば、各地で採集された多数の標本によって精査すると、腹板、尾下板の数は、明確な境界はなく、甲から乙えと移り変るので、かような亜種を設けるのは不合理で、総てを同一種として取り扱う *pore* の意見が至当であるという。

本県下には離島も含めて全域に分布している。山地にも耕地にもいるが、日中は冷涼な所にいて、夜間に主として活動する。野鼠類、小鳥などをよくとる。

卵胎生で、当地方での胎生期は、高橋時重の採集標本によれば、8月末には大体胎児が成熟しているので、9月中旬頃かと思われる。

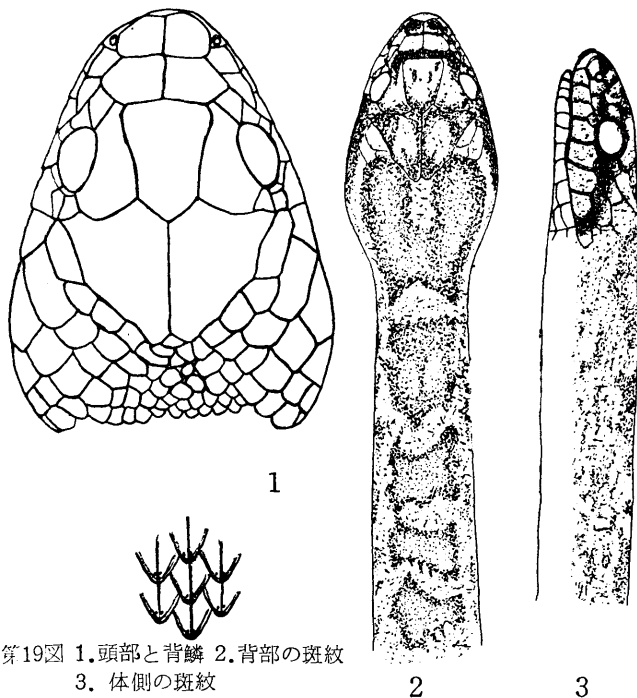
マムシはエイの肝臓を好むという。それで五島では、エイの肝臓は決して家の近くには捨てない。畑のそばの野外肥溜に捨てておいたところ、10数匹のマムシが集っていた例もある(山下)。

マムシの皮をはいで、骨や肉を乾燥したものを、強壮剤として食用にすることは県下全般に行はれている。また生きたマムシを焼酒に浸して、マムシ酒を作ることもよく行はれる。マムシ酒は強壮、強精剤になるという。

24. アオダイショウの一型

(第5図版 5, 6)

VI-64 長崎, 7-X-65 長崎市(山本愛三)(成蛇)他に西彼杵郡高島町(指方)長崎(片淵中)



第19図 1.頭部と背鱗 2.背部の斑紋
3.体側の斑紋

体長917mm 尾長201mm 腹板241

幼蛇は背面は灰色で、頸の部分に凹字形、背中線に沿ってあまり濃くない、不正長方形の黒斑がたくさん並んでいる。眼の後から口裂の終りに向って黒い斜線がある。

図示したものは長崎北高の山本愛三氏の採集であるが、長崎では時どき捕れるようである。

西彼杵郡高島中学にいられた指方教諭からも同島での採集品を贈られたことがある。成蛇は背面の地色は滞褐黒色であるが、生きたものでは背鱗の周囲が黄色に縁取

られているため、全体は黄味がかって見える。背部の不正方形の黒斑は、淡いが明らかに認められる。腹板にも黒灰色の小斑がある。眼の後から口裂の終に至る斜の黒条はよく認められる。

アオダイショウの一型と思われるが、かなり固定した形質である。

この種については尚精査の必要があるように思われる。

Ⅲ 長崎県産爬虫類の分布表

種	類	対馬	壱岐	五島	県・本	九州	備 考
TESTUDINATA カメ目							
Cheloniidae ウミガメ科							
1. <i>Chelonia mydas japonica</i>	アオウミガメ	不明	○	○			本, 小笠原 (印度太平洋)
2. <i>Eretmochelys imbricata squamata</i>	タイマイ	○	不明	○		○	本, (太西洋, 太平洋, 印度洋)
3. <i>Lepidochelys olivacea</i>	アカウミガメ	○	○	○	○	○	本, (印度, 太平洋, 太西洋)
4. <i>Dermochelys coriacea</i>	Schlegeli オサガメ		○	○			本, 日本海, (印度, 太平洋)
Testudinidae カメ科							
Emydinae イシガメ亜科							
5. <i>Geoclemys reevesii</i>	クサガメ	○	○	不明	○	○	本, 四, (朝, 台, 中)
*6. <i>Clemmys japonica</i>	イシガメ	○	○	○	○	○	本, 四,
Trionychidae スッポン科							
7. <i>Trionyx sinensis japonica</i>	スッポン		○		○	○	本, 四, 種子, (亜種は満, 支, 台, 印)
SQUAMATA トカゲ目							
Gekkonidae ヤモリ科							
Gekkoninae ヤモリ亜科							
8. <i>Gekko japonica</i>	ヤモリ	○	○	○	○	○	本, 四, 琉, (台, 朝, 中)
Scincidae トカゲ科							
*9. <i>Eumeces latiscutatus</i>	トカゲ		○	○	○	○	北, 本, 四,
*10. <i>Lygosoma reevesi vandenburghi</i>	ツシマスベトカゲ	○					
Lacertidae カナヘビ科							
*11. <i>Takydromus tachydromoides</i>	カナヘビ		○	○	○	○	北, 本, 四,

種	類	対馬	壱岐	五島	県・本	九州	備 考
Colubridae ヘビ科							
Colubrinae ヘビ亜科							
*12. <i>Elaphe quadrivirgata</i> シマヘビ			○	○	○	○	北, 本, 四,
*13. <i>E. Conspicillata</i> ジムグリ			○	○	○	○	北, 本, 四,
*14. <i>E. Clima Cophora</i> アオダイショウ		○	○	○	○	○	北, 本, 四,
15. <i>Dinodon rufozonatus</i> アカマダラ		○					(朝, 満, 中, 台)
*16. <i>D. Orientalis</i> シロマダラ			○	○	○	○	本, 四,
Natricinae ヤマカガシ亜科							
17. <i>Natrix vibakari</i> ヒバカリ			○	○	○	○	本, 四, (朝, 沿海)
18. <i>Rhabdophis tigrinus</i> ヤマカガシ			○	○	○	○	本, 四, (朝, 満, 治, 中)
Hydrophiidae ウミヘビ科							
Laticaudinae エラブウミヘビ亜科							
19. <i>Laticauda Colubrina</i> アオマダラウミヘビ					○		長崎から記録, 西表島 (馬來, 濠, 比, 台海域)
Hydrophinae ウミヘビ亜科							
20. <i>Hydrophis cyanocinctus</i> マダラウミヘビ				○			本州南部 (ペルシャ 湾, 印度洋, インド ネシヤ海域)
21. <i>H. Ornata</i> ゴッドフロアウミヘビ					○		長崎県沿岸 (中, タ イ, 台, 琉海域)
22. <i>Pelamis platurus</i> セグロウミヘビ		○	○	○		○	北, 本, 四 (馬來, 印 タイ, 南中, 台, 琉, 海域)
Viperidae クサリヘビ科							
Crotalinae マムシ亜科							
23. <i>Agkistrodon haly</i> マムシ		○	○	○	○	○	北, 本, 四, 奄大, (朝, 満, 中, 台, 八重山 シベリア, 中央亞, 東欧)
Colubridae ヘビ科							
24. <i>Elaphe</i> アオダイショウの一型					○		

* 印は日本固有種

IV 結 び

長崎県の爬虫類は、現在のところ、2 目, 9 科, 23 種である。

F. D. フォン シーボルトは、長崎に滞在中、長崎附近のみならず日本各地で採集したヘビを、オランダ、ライデン国立博物館に持ち帰り、TEMMINCK と SCHLEGER とが研究し、これを有名な **Fauna Japonica** で出版したのが、長崎のヘビが (日本のヘビも) 知られた最初である。岡田彌一郎氏は古く対馬のヘビやカエルの類を研究された。県下では中尾信

吉，歌野吉甫，浦田明夫の諸氏は対馬の爬虫類を，山下典郎氏は五島のヘビを研究された。

壱岐，五島の爬虫類は，県本土とあまり変らないが，対馬だけは，本土と共通のものはインガメ，クサガメ，ヤモリ，アオダイショウ，マムシに過ぎず，他の内地に普通な種類は生息しない。大陸系のアカマダラと，ツシマスベトカゲを特産することは生物地理学的に興味のあることである。

今後暖流にのって偶然にやってくる海蛇類と，陸産蛇ではタカチホヘビが発見されるかも知れないが，他には種数の増加はあまり期待できないように思われる。

Laticauda Semifasciata エラブウミヘビ は採集される可能性の最も大きい海蛇であるが，まだ本県の近海で採集された確実なデータのある標本は，一頭体も見えていない。

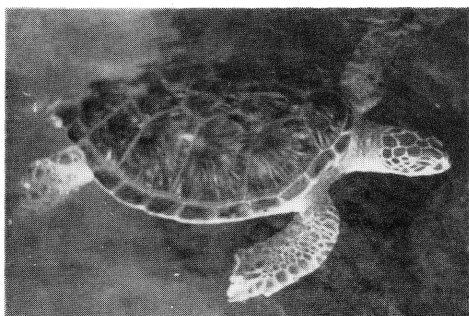
山下典郎によれば，五島有川町の漁夫は，セグロウミヘビをメランと呼び雌と信じ，他の一種の海蛇をオイランと呼んで，これを雄と信じてるい由である。漁夫の云うオイランの形態，色彩から考えると，確実にエラブウミヘビと思われるが，実物について確めるまでは保留しておかねばならない。

尚20，21両種の海蛇と海亀を除けば，他の標本は全部当教室に保管している。

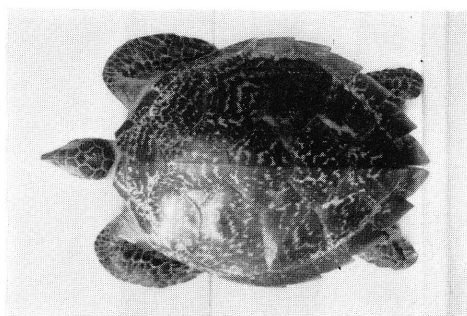
V 主 要 参 考 文 献

1. 堀川 安市 長崎県脊椎動物目録
2. 岸田 久吉 ヘビ（小学校教材の徹底的解説）
3. 牧 茂一郎 原色日本蛇類図説
4. 中村 健二 蛇の功罪
5. 中村，上野 原色両生爬虫類図鑑
6. 岡田彌一郎 日本のへび（遺伝昭40.1）
7. 大島 正満 大東亜共栄圏の毒蛇解説
8. 岡田 要 外 新日本動物図鑑
9. 内田清之 外 日本動物図鑑
10. Richard C. Goris A Herpetological Survey of Tsushima Island
（爬虫両棲類学雑誌 Vol. 2, No. 2）

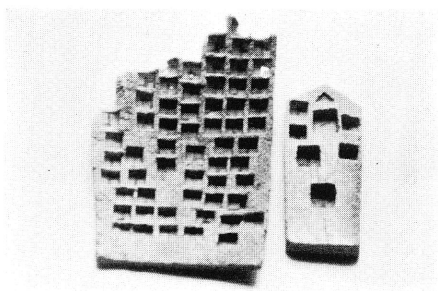
第一図版



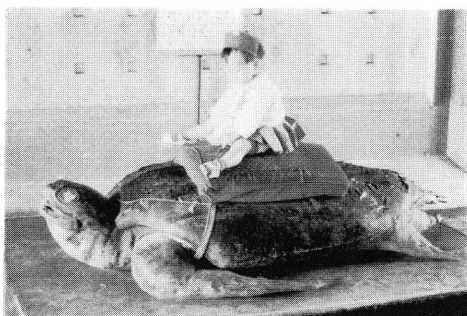
1



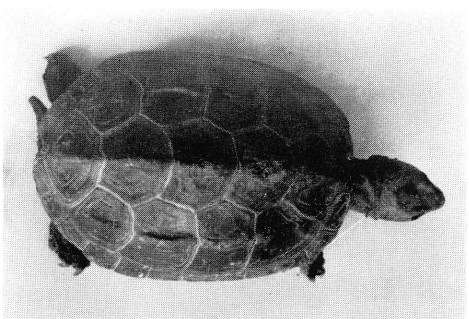
2



3



4



5

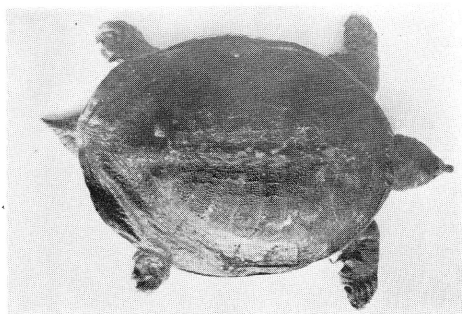


6

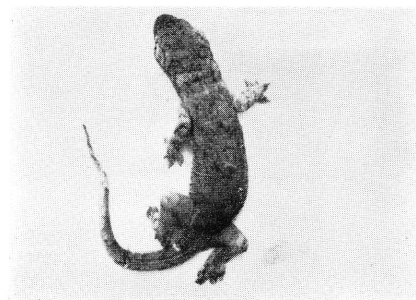
1. アオウミガメ(五島近海)
 3. 亀 ト(対馬郷土館蔵)
 5. クサガメ(大村産)

2. タイマイ(五島近海)
 4. オサガメ(五島近海産
 長崎水族館蔵)
 6. イシガメ(長崎産)

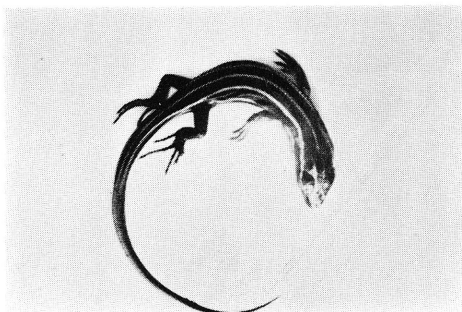
第二図版



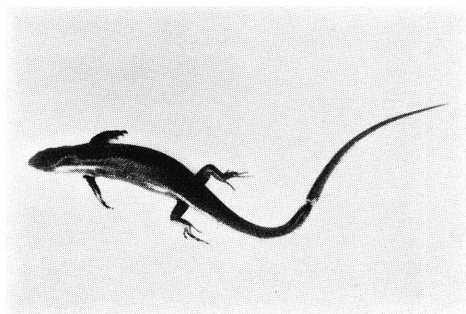
1



2



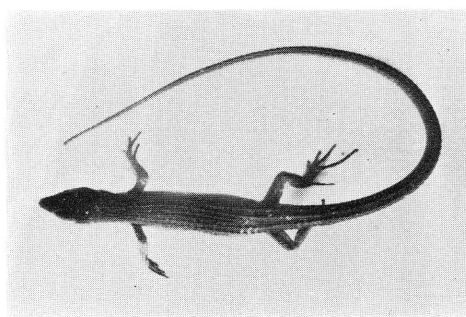
3



4



5



6

1. ス ッ ポ ン (大 村 鈴 田 川 産)

3. ト カ ゲ (大 村 産)

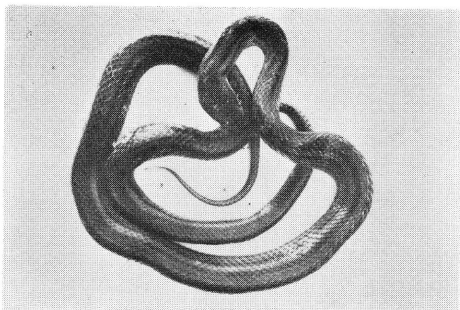
5. ツシマスベトカゲ (対 馬 産)

2. ヤ モ リ (大 村 産)

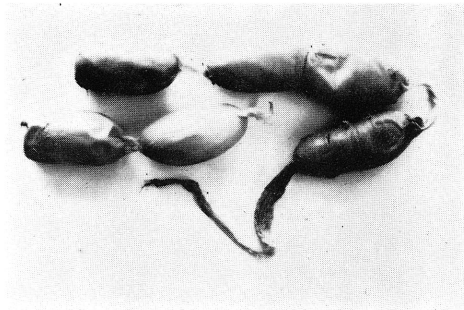
4. ト カ ゲ (大 村 産)

6. カ ナ ヘ ビ (大 村 産)

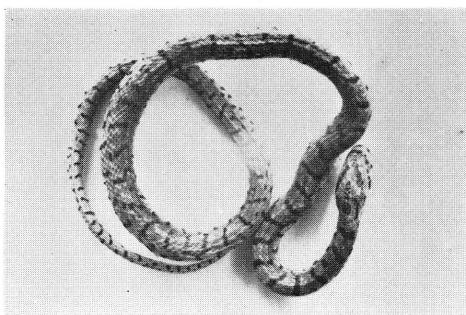
第三図版



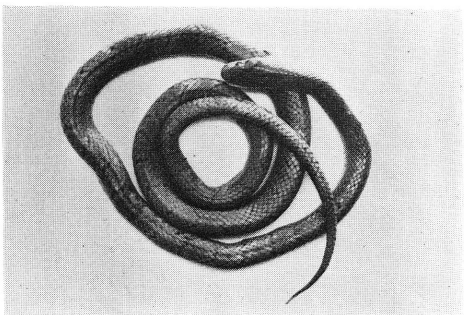
1



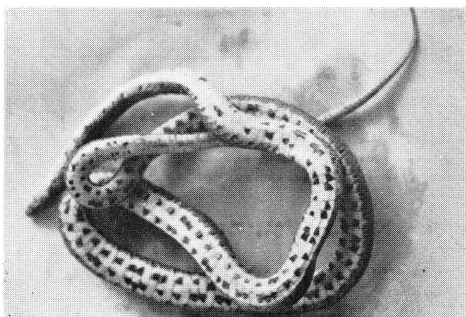
2



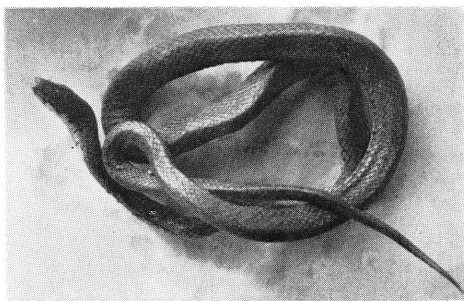
3



4



5

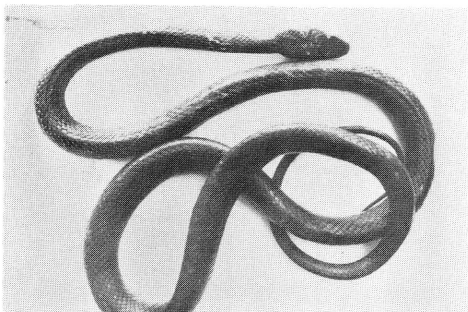


6

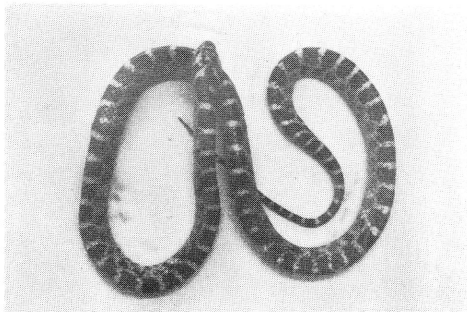
1. シマヘビ(長崎産)
 3. ジムグリの幼蛇(大村産)
 5. ジムグリの腹面(五島産)

2. シマヘビの卵巣内の卵
 4. ジムグリエ成蛇, 横黒条のあるもの(長崎産)
 6. ジムグリエ成蛇, 横黒条のないもの(五島産)

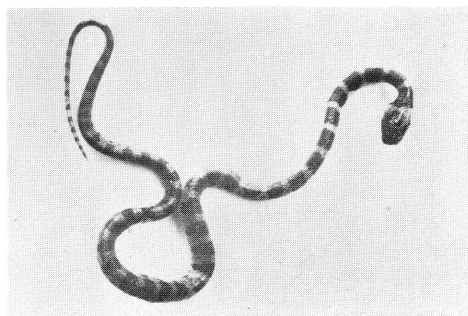
第四図版



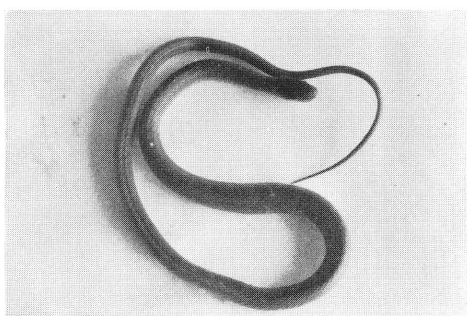
1



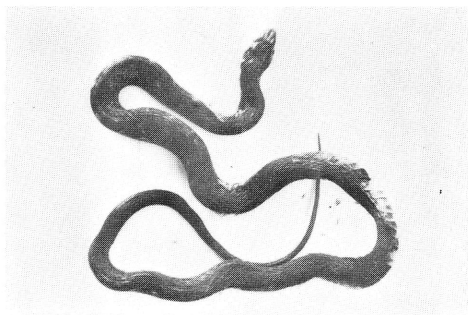
2



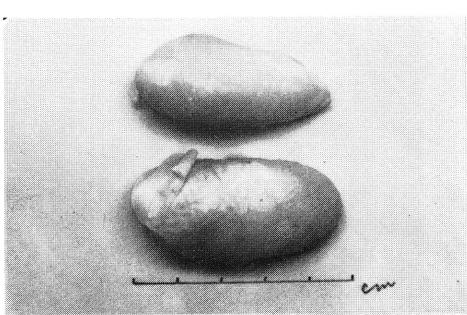
3



4



5

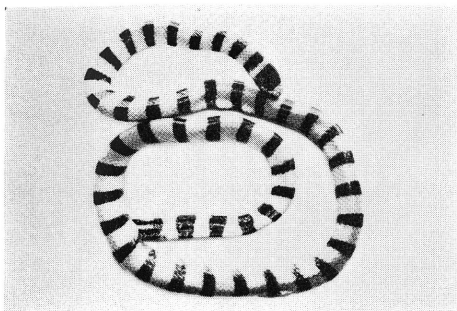


6

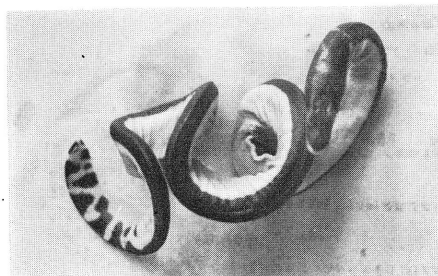
1. アオダイショウ (長崎産)
3. シロマダラ (五島産)
5. ヤマカガシ (長崎産)

2. アカマダラ (対馬産)
4. ヒバカリ (長崎産)
6. ヤマカガシの卵巣内の卵 (長崎産)

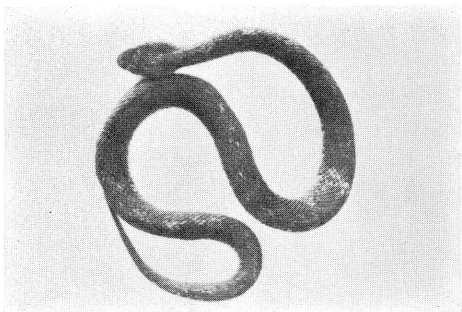
第五図版



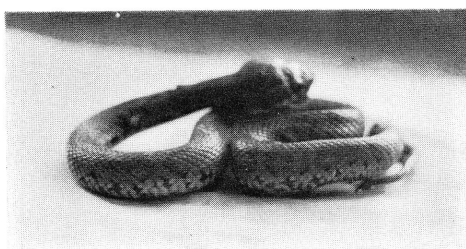
1



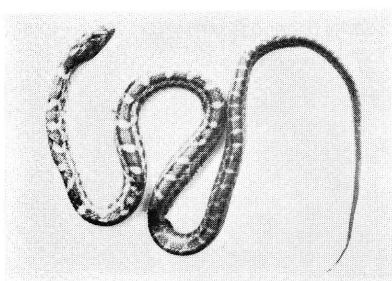
2



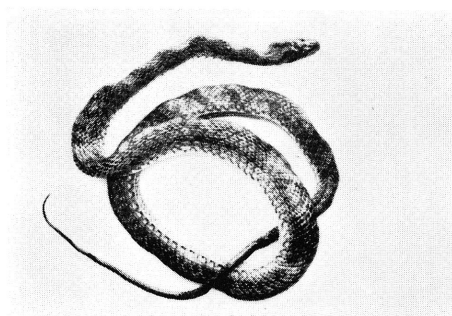
3



4



5



6

1. アオマダラウミヘビ (西表島近海産)

3. マ ム シ (長 崎 産)

5. アオダイショウの一型の幼蛇 (長崎産)

2. セグロウミヘビ (五 島 近 海 産)

4. マ ム シ (五 島 産)

6. アオダイショウの一型の成蛇 (長崎産)